

錦上添花

錦ヶ丘中学校
学校便り
11月15日発行 NO.24
文責 出崎 友英

強いチームになるには

今回は、奥村幸治さんの書かれた文章を紹介します。奥村さんはプロ野球チームのオリックス入団後、イチロー選手の専属打撃投手をしながら、自分も現役選手になる夢に向かって何度も入団テストに挑戦しました。しかし願いは叶わずに現役を引退し、少年野球チーム「宝塚ボーイズ」を結成して、自ら監督になります。プロ野球選手のイーグルスの田中将大投手やジャイアンツの坂本勇人選手は、その時の教え子です。その奥村さんがプロ野球や少年野球の指導を通して感じられたことを書かれたのが、以下の文章です。

常勝しているチームと低迷しているチームには大きな差がありました。

常勝しているチーム内にあるのは「自覚と責任」です。つまり、「自分が何をすべきか？」ということを選手一人一人が認識しているのです。

例えば常勝チームでは、控えの選手でも自分がどの場面での状況なら試合でチャンスをもたらせるか、その状況を確認しながら出場を待つ姿があります。そして出場するための準備をするのです。そこには、誰かの指示を待つ姿はありません。

また、結果が伴わないときにもグチをこぼさずひたむきに努力する選手がいたりします。前向きに準備ができる選手は、やはり監督、コーチもその姿を見ていて応援してくれますし、結果としてチーム全体に良い空気、良い循環が生まれます。

その反対に低迷しているチームは、「やらされている感」が選手たちの心の中に広がっています。

そういった場合、監督・コーチ・選手間の信頼がうまく築けていない場合がほとんどで、「試合出場の機会が少ない」とグチをこぼす選手や、「何で俺を使わないのや」とチームの状況をわかっていない発言をする選手が増えてしまいます。



そして「自分が何をすべきか?」「何を必要とされているか?」を一人ひとりが理解しようとせず、とにかく他人や物のせいにしてしている。チームとしての悪循環が起こってしまうのです。

この一人ひとりの行動と考え方がチームによって、ずいぶん変わっていて、それが実際の試合結果にも影響していることを、僕は実際にいたチームの中でいやと言うほど感じてきました。

キーワードは、常に「自分が何をすべきか?」「何を必要とされているか?」を考えられるか、という事につきます。そういった考え方ができる選手が結果的に活躍できる選手であり、そういう選手が集まる集団は強いのです。

置かれた立場や状況に不満をもつ前に、まず自分を伸ばすために何が必要かを自分で考えて行動することのほうがよほど建設的です。その考え方ができれば、どんな環境でもどんな分野でも、自分を伸ばすことはできるはずだと僕は思います。

けっして他人や物のせいにはしないことです。

県中体連駅伝大会

11月8日(金)、**県中体連駅伝大会**が天草市で開催されました。熊本市の代表として本校の男女チームがそろって出場し、県内各地区の代表校と健脚を競いました。

結果、女子はアンカーの1年〇〇〇〇さんが、ゴール直前のスパートで前にいた選手を抜き去り、見事準優勝に輝きました。4区を走った3年〇〇〇〇さんは区間賞を獲得しました。男子は全員3年生の布陣で臨み、粘り強い走りですっかりとタスキをつなぎ、18位になりました。

選手の皆さんおつかれさまでした。応援サポートいただいた皆さん、ありがとうございました。



◆お知らせです。

○11月14日(木)、**バスケットボールの贈呈式**がありました。これは大和ハウス工業と熊本ヴォルターズの社会貢献活動の一環です。今回贈呈される東区の小中学校29



校の代表として、錦ヶ丘中でこの式が行われました。会の中で、ヴォルターズの澤邊選手が生徒たちの「どうすればワンオンワンが強くなれますか?」「失敗した時の気持ちの切り替え方はどうすればいいですか?」などの質問にとってもていねいに答えていただきました。ご来校いただいた皆様、ありがとうございました。バスケットボールは、体育の授業などで大切に使っていきます。

限界を決めるのもあきらめるのも自分自身。
あきらめなければ夢はつながる。「先生のトコ集」より